

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104068
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス奥道後
所在地	松山市末町乙41番3
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特徴として、協力医療機関の支援・指導により健康管理に努め、日々の生活の中にリハビリを取り入れ、QOLの維持、向上に努めている。マイクロバスや車を利用し、外出の機会を持ち、人・社会との交流を心がけ、気分転換が図れるように支援している。畑を利用し、四季に応じて種まき・収穫することで、園芸の楽しさを味わっていただく。衛生管理と清潔を保つことに留意し、毎月施設の点検と毎日の掃除の徹底で利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。栄養面でも管理栄養士に相談ののってもらっている。また、地域の行事に積極的に参加して生活に張りがあるように取り組んでいる。四季折々の季節感が感じられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな丘陵地にある保養所を改修して事業所として使用している。開設10年が経過した事業所では、祭りなどの地域行事に積極的に参加したり、月1回中山物産展を開催し、地域住民の集まる良い機会として役立ててもらったりなど、交流を積み重ね地域に根ざした事業所となっている。春には桜の木の下でお茶会を開催する等、元保養所ならではの四季折々の風景を楽しむことができる。法人の代表者は整形外科を開業しているため、利用者のリハビリに力を入れており、利用者は自由にリハビリ機器を使い、身体機能の維持や向上が楽しみの一つになっている。意欲とパワーあふれる管理者は職員からの信頼が厚く、職員全員が明るく意欲を持って働いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス奥道後

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)
氏名 二宮 美保

評価完了日 26年6月16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者・職員間で、地域の中・、共同生活の中で、如何すれば、その人らしく暮らせるかを考える。 笑顔の絶えない場所・自分らしくいられる場所・会話の多い場所にするように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「笑顔の絶えない場所・自分らしくいられる場所・会話の多い場所」という理念を開設時に職員全員で話し合い作成している。ミーティング等で理念の見直しを検討したが、職員は日常生活の中で重要な内容であり、大切に支援していくことを確認し合い継続している。また、理念はリビングや食堂に利用者にも分かるように大きく掲示し、職員間で共有して実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事である正月・夏・秋祭り・敬老会等に参加したり、夏休みには、湯山小学校の子供たちとの交流・春のお茶会に地域の方に声をかけたり、また、昨年からは湯山中学校の生徒さんの職場体験の受け入れをするなど、地域との交流を大切にしている。月1回中山の物産店を開催して気軽に足を運んでもらっている。利用者と散歩に出かけたり犬の散歩等などを通じなじみの関係を広げている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、地域の祭りや他の事業所の夏祭りなどの行事に積極的に参加して交流している。管理者は防災士資格を取得し、地域の防災訓練に参加し貢献している。小中学生の職場体験を受け入れたり、春には桜の下でお茶会を開催したりするなど、利用者と交流をしている。また、月1回事業所では中山物産展を開催しており、地域住民の集まる良い機会となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 包括支援センターの方と協力し、認知症の人の理解や支援の方法を、人形劇で地域の人々に向けて発信している為、職員が交代で参加している。小学生・中学生との交流を通じて認知症の人の理解を深めていただいている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で出された提案については、その経過を報告し一つずつ積み上げている。外部評価についても一緒に考えていただくよう提案し、意見交流している。開催ごとに議題を決め、研修報告をしたり参加者から意見をいただき、反映させている。また、地域の方からの要望を頂いたり、他施設の職員を招き、その施設の取り組みなどを講話頂き、参考にしたりしてサービスの向上に役立っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者や家族、区長、民生委員、市社協職員、駐在所員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。職員2名体制で案内から会議のテーマを決めて発表するまでの全般を担当し、職員のスキルアップにも繋がっている。参加者から出された意見を反映して、サービス向上に活かすことができている。また、多くの家族への呼びかけや会議録の整備も検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険更新時など利用者の方と一緒に行き状況を見ていただいたり、新しい情報を提供していただく。分からないことについては、聴いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加しており、情報提供やアドバイスをもらっている。介護保険の更新申請は職員が利用者と一緒に窓口に出向き、書類などを提出している。身寄りのない利用者の緊急時の対応の相談をするなど、協力関係が築けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員一人ひとりが十分理解し介護を行っている。ただし、利用者の生命・身体を保護するため、本人?家族に説明し「身体抑制の同意書」をいただき、拘束を行う事もある。声掛け・見守りに配慮し、一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、玄関・窓等鍵をすることなく自由ま暮らしを支援している。現在は身体拘束はなし</p> <p>(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会の年間予定に取り入れ、職員全員で正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者はエレベーターを使用して自由に出入りすることができる。外出しようとする利用者には、駐車場に出て気分転換をしてもらったり、玄関でゆっくり過ごしてもらったりするなど見守りをして対応している。また、利用者が一人で歩いている場合には、近くのそば屋の店員が声をかけてくれるなど連携が取れている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会のテーマとし、職員間で話しあっている。介護する時は、心にゆとりをもち、一人で思い込み・抱え込みをしないよう心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護成年後見人制度について研修に参加し、その資料を基に伝達交流を行い職員の理解を深めるよう努力している。運営推進会議で議題にして共有できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行い、理解、納得を得ると共に、何かあればいつでも相談対応ができるように心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者や家族の声を聞き、問題への解決に努めている。また、重要事項説明書には外部者への相談窓口等の連絡先も示している。	
			(外部評価) 開設10年が経過し、家族等の高齢化に伴い電話で意見を聞くことが多くなっている。家族の面会時には声をかけ、話を聞くようにしている。聞き取った内容は家族対応ノートに記録して職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを行い職員の声を聴きいれている。また、皆が働きやすい施設を目指し努めている。 (外部評価) 月1回職員会を開催し、管理者は職員の意見を聞くようにしている。運営推進会議と同じく、職員会は職員2人体制で、議題の内容や司会進行、記録など全般を担当し、職員の意見や提案を出しやすくする工夫をしており、そこで出された意見は話し合い対応している。職員会で解決できない場合には法人本部に報告して対応している。また、管理者は職員との個人面談を行い、相談を受けることもある。外部研修などの案内情報は職員間で共有し、積極的に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 能力向上を目指し、研修を受けたり、資格が取れるよう便宜を図る。常勤、パートの人材確保により勤務状態を確保し、勤務表もそれぞれ無理なく仕事ができるように希望を聞き入れ、2週間ごとに作成している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告書・資料については全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターを通じ、地域の同業者と互いに意見交流を持ち、サービスの向上に取り組んでいる。認知症理解を高めようと、地域の人も巻き込み人形劇にも参加している。地域のケア会議等にも参加し、他施設の取り組み等も参考にしながらサービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談で、状況を把握すると共に、本人・家族・介護支援専門員に施設を見て頂き納得し入所生活を始めてもらうよう心掛けている。また、入所前の生活や不安なことを聞き安心して生活していただけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所を考えるまでの経緯をゆっくりと聴くことにより（家族の思いと本人の要望や求めているものとの違いも含め）状況を把握する。いつでも相談でき、受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学していただき、必要に応じ、状況を把握し、担当介護支援専門員に方も交え、何が必要かを見極めサービスを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「お年寄りや人生の先輩である」という考えで、いろいろな事を教えてもらっている。支援する側・される側という意識を持たず、お互い助け合いながら、和やかな生活ができるよう心掛けている。利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りしながら一緒に行く。職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。入所前の生活、入所後の生活、双方の生活状況を知らせあい、利用者本人にとって良い方向に向かうようお互いにコミュニケーションをとっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には、お互いの情報を交換し合い、本人が安心して生活できるよう支えられ、協力関係が築けるように配慮している。面会時には、気兼ねなく過ごせる時間をもって頂き、これまで以上の良い関係が築けるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時あるいは電話や便りを利用して情報交換を行い、今までの関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 利用開始時に利用者や家族から馴染みの関係を聞いて把握している。また、日常会話の中で新たに知り得た内容は記録し、パソコンに追加して打ち込み職員間で情報を共有するようにしている。利用者の馴染みの店やお墓参りに出かけたという希望など、個別に対応できるよう努めている。また、近隣の友人の訪問があり、ゆっくり過ごしてもらうよう対応をするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり、楽しく過ごす時間をもうけたり、気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように声かけ・見守りをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も現状を把握するため訪問・電話するなどし、必要時には互いに連絡をとり合い相談に応じている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の声かけ、見守りする中で、またご家族との話し合いの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。1日の本人の行動・言動に気を配り、話を傾聴する時間を持つようにしている。本人の1日の過ごし方を通じ、意向をくみとることができるように努めている。	
			(外部評価) 利用者との日常会話の中から、1日の過ごし方や暮らし方などの思いを聞き、できる限り対応するよう努めている。思いの把握が困難な利用者には、その時々で場面で利用者の様子や表情から意向をくみ取り、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常生活でも、本人・家族から情報を収集し、職員みんなで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録の活用、家族や職員間で意見交流をし、利用者の把握に努める。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方には、介護保険更新時の訪問調査に可能な限り同席していただき、状況を把握していただくと共に、本人・家族の意見を聴き介護計画を作成している。定期的な計画の見直し時・急変時にはモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した新たな計画書を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族から聞き取った意見を反映して、介護支援専門員を中心に話し合い介護計画を作成している。3か月に1回、担当者会議を開催し見直しをしている。家族等が会議に参加できない場合は事前に聞き取りをしている。また、毎月モニタリングを行っているが、サービスの実施記録がないため、評価が分かりにくくなっている。	介護計画に沿ったサービスを提供しているが、計画に沿った実施記録がないため、外部から見てモニタリングなどの評価の根拠が分かりづらく、職員全員で話し合い分かりやすい書式とすることを望みたい。また、書式を変更することにより、日々のモニタリングの記録が明確になり、職員にも分かりやすく利用者一人ひとりのサービスの向上に繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の生活で気づいたこと、うまくいったこと等は、記録し計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じ、通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応する。リハビリを兼ね、近郊を散策し、季節の移り変わりを感じたり、風景や草花を見て昔を懐かしんだりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に合わせ、民生委員や区長・警察・消防等と協力しながら、いろいろな情報をいただき、地域の行事などに参加する事で輪が広がるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療関係と連携をとり、定期健診や相談・受診等を行 い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望の かかりつけ医がいる場合は、現状がわかるよう情報を提供 し、受診できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用開始後に利用者の生活が落ち着き、身体状況が安定した 段階で、協力医をかかりつけ医に変更できることを利用者や 家族に説明し、確認している。週1回協力医の往診があり緊 急時にも迅速に対応できるため、協力医をかかりつけ医とし ている利用者も多い。専門医など家族の協力を得て受診する 場合には、利用者の生活の様子や状態の情報提供を行い、ス ムーズに受診できるよう対応している。また、往診や受診内 容、服薬の変更を家族に報告するなど、情報を共有し適切な 医療を受けることができるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員と情報共有を行い、看護師が健康管理する。必要 があれば協力医療関係と連携し、受診したり、往診にきてい ただいたりしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 協力医療関係と連携を取り合っているため、早期診療・専門 医への紹介が可能である。入院時は医療機関と共同・情報共 有し、早期退院できるように協力医療機関にも相談。援助 を受けている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 協力医療関係と連携を取り、本人・家族を交え今後の状況に ついて相談している。看取りに関する指針を作成し入所時に 説明する。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、事業所として対応できる 内容を利用者や家族に説明し、要望に沿って安らかな最期が 迎えられるよう取り組んでいる。過去に5人の看取り支援 を経験している。終末期には主治医や看護師、関係者、家族 との話し合いや連携を図り、緊急時にも迅速に対応できるよ う体制を整備している。看取りの勉強会を開催して職員間で 話し合ったり、外部研修に積極的に参加して、職員の不安を 取り除くなどサービスの向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会などで基礎知識や救急処置方法を学ぶと共に、対応は施設のマニュアルを整備している。職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。急変や事故発生時に備え、勉強会を行うと共に対応は施設のマニュアルを整備し、職員全員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、災害時の対応は日々訓練している。運営推進会議で地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。防災士を養成し、地域との協力体制を築いている。 (外部評価) 年2回、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を消防署の協力を得て実施している。管理者は防災士資格を取得し、地域の防災訓練に参加協力をしている。職員は常日頃から消火設備の点検を行い、夕食後にはガスの元栓を閉めるなどの防火対策を徹底している。災害発生時には事業所が孤立することが予測されるため、防災マップの作成や備蓄品の用意を検討している。	災害発生時に活用できるよう、1日も早く防災マップの作成や備蓄品の用意をすることを期待したい。また、災害発生時には迅速な利用者の避難誘導などの対応ができるよう、職員全員が緊張感を持って災害対策に取り組むことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングのとき、利用者一人ひとりの状況把握を職員間で共有し、誇りやプライドを損ねない対応の徹底を図っている。また、職員一人ひとりが相手の立場に立ち、言葉づかいには十分気をつけている。 (外部評価) 排泄や入浴時は特に利用者の羞恥心に配慮した対応を心がけて支援している。着替えや排泄などの介助時は必ず戸を閉め、希望に応じて、同性での入浴介助に対応している。職員は利用者目線を合わせて声をかけ、言葉づかいに気を配り会話をしている。利用者の誇りを損ねない支援方法などを職員間で話し合い、個人情報の管理にも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 月1回の中山物産店でおやつ等を自分で選べる場面を作っている。外出時や行きたい場所等も選んでもらうように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調や気分によっては食事を遅らせたり、入浴を翌日にするなど配慮している。また、散歩をしたい人は同行したり、出来るだけ希望が添えるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容・美容においては本人の意見を聴き、訪問美容ではあるが、毛染めやパーマなど、利用者の好みにしてもらっている。また、必要に応じて家族の協力を得、行きつけの店へ行く事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好むメニューを考えたり、どうしても苦手な食べ物がある人に対しては別のものを用意するなど配慮している。食事の準備、片付け等については出来る方に声をかけをし、一緒にする。自主的に手伝ってくれる方もいる。 (外部評価) 月1回法人の管理栄養士が各事業所で利用者の好みや要望を聞き取り、献立を作成している。利用者の疾病や体重の変化等を確認し、利用者毎に食事に対応して、職員が調理している。食材は利用者と一緒に買い物に出かけ、近隣住民からの差し入れや畑で採れた旬の野菜を取り入れ、臨機応変にメニューを変更して調理している。利用者は野菜などの下準備などの調理の手伝いをしている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、同じ食事を一緒に楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事量は記録として残している。栄養士と相談し、食材に合ったメニュー作りを心掛けている。必要に応じ、刻む・とろみをつける等の配慮をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員に理解してもらい、一人ひとりの能力に応じ、声かけ・見守り・介助している。毎食後、きれいにする事で口臭もきにならなくなり、風邪など感染症も減少している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握する。声かけ・トイレ誘導など、本人の生活リズムに沿った支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声をかけ誘導してトイレで排泄ができるよう支援している。3年間オムツを使用していた利用者が、車いすで立位が取れることからトイレでの排泄支援を繰り返すことで、オムツから紙パンツ使用になった事例もある。利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が及ぼす不穏行動などの影響は、ケース検討・勉強会などで理解している。食事については、栄養士と相談し工夫してメニュー作りを心掛けている。運動量や水分補給にも気を配っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴拒否等が見られる場合には、声かけ・対応の工夫をし、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者の状態に応じて入浴できるよう支援している。1階にある浴槽にはリフトを設置しており、利用者の身体状況に応じて使用し、安心安全に利用者全員がゆっくり浴槽につかり入浴を楽しんでいる。入浴の苦手な利用者には、タイミングや声かけを工夫し、自然な形で入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えている。就寝時は本人の希望に合わせて、声かけ・誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ・誤薬を防ぐように心掛けている。職員一人ひとりが、処方薬の目的・副作用を理解できるよう一覧表を作成すると共に、疑問があれば看護師に相談する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りをしながら一緒に行く。職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と共に近隣・中庭を散歩したり、花壇や畑の手入れをする。気の合う仲間と喫茶店へ出かけ、お茶を楽しんだりするなど、戸外に出かけられるよう支援する。 (外部評価) 事業所にあるエレベーターを使用して自由な外出を支援している。事業所周辺は急な坂道があり、転倒の危険があるため、日頃から中庭を散歩したり、畑で野菜づくりをして気分転換をしている。季節に応じて、七折の梅まつりや苺狩り、コスモスを見に行ったり、喫茶店にケーキを食べにでかけるなど、外出を楽しんでいる。また、「お墓参りに行きたい」などの利用者の個別の要望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望があれば家族の協力を得て、小額のお金は持たすことも出来るが、現在は自分で持っている利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族が遠くにいてなかなか来られない利用者には、定期的に電話を掛けていただいたり、家族の声が聴きたくなれば、こちらから電話を掛けお話ししていただく。小包を届けてくれれば、お礼の手紙と一緒に書いたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレの汚染時は速やかに掃除・消毒を行っている。職員一同清潔に努め、皆さんが気持ちよく過ごせるように配慮している。 (外部評価) 年3回バルサンを焚き、防虫や消臭に気を配りながら清潔な環境整備に努めている。保養所を改修した事業所は、玄関にいすやリビングにソファを配置してあり、利用者は自由にくつろげる空間が多い。リハビリ機器も置かれており、利用者は身体機能の維持など自由に使用している。リビングは広々として明るく、窓からは保養所ならではの桜などの花や四季折々の景色を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関の椅子に座り、外を眺めたり季節感を味わったりして談話する光景も見られる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 希望があれば居室へ使い慣れた道具を持ち込んでいただき、過ごしやすい空間作りに努めている。 (外部評価) 居室はベッドや寝具、整理タンス、クローゼットを常備している。居室には利用者の使い慣れたテレビやラジオ、ぬいぐるみ、ドレッサーなどを持ち込むことができる。また、利用者一人ひとりに合わせた個性のあるレイアウトを工夫し、居心地よく過ごすことができる空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置・段差の解消・身障者用のトイレの設備等により、自立に向けた生活が送れるよ支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104068
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス奥道後
所在地	松山市末町乙41番3
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特徴として、協力医療機関の支援・指導により健康管理に努め、日々の生活の中にリハビリを取り入れ、QOLの維持、向上に努めている。マイクロバスや車を利用し、外出の機会を持ち、人・社会との交流を心がけ、気分転換が図れるように支援している。畑を利用し、四季に応じて種まき・収穫することで、園芸の楽しさを味わっていただく。衛生管理と清潔を保つことに留意し、毎月施設の点検と毎日の掃除の徹底で利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。栄養面でも管理栄養士に相談ののってもらっている。また、地域の行事に積極的に参加して生活に張りがあるように取り組んでいる。四季折々の季節感が感じられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな丘陵地にある保養所を改修して事業所として使用している。開設10年が経過した事業所では、祭りなどの地域行事に積極的に参加したり、月1回中山物産展を開催し、地域住民の集まる良い機会として役立ててもらったりなど、交流を積み重ね地域に根ざした事業所となっている。春には桜の木の下でお茶会を開催する等、元保養所ならではの四季折々の風景を楽しむことができる。法人の代表者は整形外科を開業しているため、利用者のリハビリに力を入れており、利用者は自由にリハビリ機器を使い、身体機能の維持や向上が楽しみの一つになっている。意欲とパワーあふれる管理者は職員からの信頼が厚く、職員全員が明るく意欲を持って働いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス奥道後

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 二宮 美保

評価完了日

26年6月16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者・職員間で、地域の中・、共同生活の中で、如何すれば、その人らしく暮らせるかを考える。 笑顔の絶えない場所・自分らしくいられる場所・会話の多い場所にするように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「笑顔の絶えない場所・自分らしくいられる場所・会話の多い場所」という理念を開設時に職員全員で話し合い作成している。ミーティング等で理念の見直しを検討したが、職員は日常生活の中で重要な内容であり、大切に支援していくことを確認し合い継続している。また、理念はリビングや食堂に利用者にも分かるように大きく掲示し、職員間で共有して実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事である正月・夏・秋祭り・敬老会等に参加したり、夏休みには、湯山小学校の子供たちとの交流・春のお茶会に地域の方に声をかけたり、また、昨年からは湯山中学校の生徒さんの職場体験の受け入れをするなど、地域との交流を大切にしている。月1回中山の物産店を開催して気軽に足を運んでもらっている。利用者と散歩に出かけたり犬の散歩等などを通じなじみの関係を広げている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、地域の祭りや他の事業所の夏祭りなどの行事に積極的に参加して交流している。管理者は防災士資格を取得し、地域の防災訓練に参加し貢献している。小中学生の職場体験を受け入れたり、春には桜の下でお茶会を開催したりするなど、利用者との交流をしている。また、月1回事業所では中山物産展を開催しており、地域住民の集まる良い機会となっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 包括支援センターの方と協力し、認知症の人の理解や支援の方法を、人形劇で地域の人々に向けて発信している為、職員が交代で参加している。小学生・中学生との交流を通じて認知症の人の理解を深めていただいている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で出された提案については、その経過を報告し一つずつ積み上げている。外部評価についても一緒に考えていただくよう提案し、意見交流している。開催ごとに議題を決め、研修報告をしたり参加者から意見をいただき、反映させている。また、地域の方からの要望を頂いたり、他施設の職員を招き、その施設の取り組みなどを講話頂き、参考にしたりしてサービスの向上に役立っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者や家族、区長、民生委員、市社協職員、駐在所員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。職員2名体制で案内から会議のテーマを決めて発表するまでの全般を担当し、職員のスキルアップにも繋がっている。参加者から出された意見を反映して、サービス向上に活かすことができている。また、多くの家族への呼びかけや会議録の整備も検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険更新時など利用者の方と一緒に状況を見ていただいたり、新しい情報を提供していただく。分からないことについては、聴いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者と地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加しており、情報提供やアドバイスをもらっている。介護保険の更新申請は職員が利用者と一緒に窓口に出向き、書類などを提出している。身寄りのない利用者の緊急時の対応の相談をするなど、協力関係が築けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員一人ひとりが十分理解し介護を行っている。ただし、利用者の生命・身体を保護するため、本人?家族に説明し「身体抑制の同意書」をいただき、拘束を行う事もある。声掛け・見守りに配慮し、一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、玄関・窓等鍵をすることなく自由ま暮らしを支援している。現在は身体拘束はなし</p> <p>(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会の年間予定に取り入れ、職員全員で正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者はエレベーターを使用して自由に出入りすることができる。外出しようとする利用者には、駐車場に出て気分転換をしてもらったり、玄関でゆっくり過ごしてもらったりするなど見守りをして対応している。また、利用者が一人で歩いている場合には、近くのそば屋の店員が声をかけてくれるなど連携が取れている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会のテーマとし、職員間で話しあっている。介護する時は、心にゆとりをもち、一人で思い込み・抱え込みをしないよう心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護成年後見人制度について研修に参加し、その資料を基に伝達交流を行い職員の理解を深めるよう努力している。運営推進会議で議題にして共有できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行い、理解、納得を得ると共に、何かあればいつでも相談対応ができるように心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者や家族の声を聞き、問題への解決に努めている。また、重要事項説明書には外部者への相談窓口等の連絡先も示している。	
			(外部評価) 開設10年が経過し、家族等の高齢化に伴い電話で意見を聞くことが多くなっている。家族の面会時には声をかけ、話を聞くようにしている。聞き取った内容は家族対応ノートに記録して職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを行い職員の声を聴きいれている。また、皆が働きやすい施設を目指し努めている。	
			(外部評価) 月1回職員会を開催し、管理者は職員の意見を聞くようにしている。運営推進会議と同じく、職員会は職員2人体制で、議題の内容や司会進行、記録など全般を担当し、職員の意見や提案を出しやすくする工夫をしており、そこで出された意見は話し合い対応している。職員会で解決できない場合には法人本部に報告して対応している。また、管理者は職員との個人面談を行い、相談を受けることもある。外部研修などの案内情報は職員間で共有し、積極的に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 能力向上を目指し、研修を受けたり、資格が取れるよう便宜を図る。常勤、パートの人材確保により勤務状態を確保し、勤務表もそれぞれ無理なく仕事ができるように希望を聞き入れ、2週間ごとに作成している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告書・資料については全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターを通じ、地域の同業者と互いに意見交流を持ち、サービスの向上に取り組んでいる。認知症理解を広めようと、地域の人も巻き込み人形劇にも参加している。地域のケア会議等にも参加し、他施設の取り組み等も参考にしながらサービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談で、状況を把握すると共に、本人・家族・介護支援専門員に施設を見て頂き納得し入所生活を始めてもらうよう心掛けている。また、入所前の生活や不安なことを聞き安心して生活していただけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所を考えるまでの経緯をゆっくりと聴くことにより（家族の思いと本人の要望や求めているものとの違いも含め）状況を把握する。いつでも相談でき、受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学していただき、必要に応じ、状況を把握し、担当介護支援専門員に方も交え、何が必要かを見極めサービスを検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「お年寄りや人生の先輩である」という考えで、いろいろな事を教えてもらっている。支援する側・される側という意識を持たず、お互い助け合いながら、和やかな生活ができるよう心掛けている。利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りしながら一緒に行く。職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。入所前の生活、入所後の生活、双方の生活状況を知らせあい、利用者本人にとって良い方向に向かうようお互いにコミュニケーションをとっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には、お互いの情報を交換し合い、本人が安心して生活できるよう支えられ、協力関係が築けるように配慮している。面会時には、気兼ねなく過ごせる時間をもって頂き、これまで以上の良い関係が築けるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時あるいは電話や便りを利用して情報交換を行い、今までの関係が途切れないよう支援している。 (外部評価) 利用開始時に利用者や家族から馴染みの関係を聞いて把握している。また、日常会話の中で新たに知り得た内容は記録し、パソコンに追加して打ち込み職員間で情報を共有するようにしている。利用者の馴染みの店やお墓参りに出かけたという希望など、個別に対応できるよう努めている。また、近隣の友人の訪問があり、ゆっくり過ごしてもらうよう対応をするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり、楽しく過ごす時間をもうけたり、気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように声かけ・見守りをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も現状を把握するため訪問・電話するなどし、必要時には互いに連絡をとり合い相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の声かけ、見守りする中で、またご家族との話し合いの中で思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。1日の本人の行動・言動に気を配り、話を傾聴する時間を持つようにしている。本人の1日の過ごし方を通じ、意向をくみとることができるように努めている。	
			(外部評価) 利用者との日常会話の中から、1日の過ごし方や暮らし方などの思いを聞き、できる限り対応するよう努めている。思いの把握が困難な利用者には、その時々で場面で利用者の様子や表情から意向をくみ取り、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常生活でも、本人・家族から情報を収集し、職員みんなで把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録の活用、家族や職員間で意見交流をし、利用者の把握に努める。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方には、介護保険更新時の訪問調査に可能な限り同席していただき、状況を把握していただくと共に、本人・家族の意見を聴き介護計画を作成している。定期的な計画の見直し時・急変時にはモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した新たな計画書を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族から聞き取った意見を反映して、介護支援専門員を中心に話し合い介護計画を作成している。3か月に1回、担当者会議を開催し見直しをしている。家族等が会議に参加できない場合は事前に聞き取りをしている。また、毎月モニタリングを行っているが、サービスの実施記録がないため、評価が分かりにくくなっている。	介護計画に沿ったサービスを提供しているが、計画に沿った実施記録がないため、外部から見てモニタリングなどの評価の根拠が分かりづらく、職員全員で話し合い分かりやすい書式とすることを望みたい。また、書式を変更することにより、日々のモニタリングの記録が明確になり、職員にも分かりやすく利用者一人ひとりのサービスの向上に繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の生活で気づいたこと、うまくいったこと等は、記録し計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じ、通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応する。リハビリを兼ね、近郊を散策し、季節の移り変わりを感じたり、風景や草花を見て昔を懐かしんだりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に合わせ、民生委員や区長・警察・消防等と協力しながら、いろいろな情報をいただき、地域の行事などに参加する事で輪が広がるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療関係と連携をとり、定期健診や相談・受診等を行 い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望の かかりつけ医がいる場合は、現状がわかるよう情報を提供 し、受診できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用開始後に利用者の生活が落ち着き、身体状況が安定した 段階で、協力医をかかりつけ医に変更できることを利用者や 家族に説明し、確認している。週1回協力医の往診があり緊 急時にも迅速に対応できるため、協力医をかかりつけ医とし ている利用者も多い。専門医など家族の協力を得て受診する 場合には、利用者の生活の様子や状態の情報提供を行い、ス ムーズに受診できるよう対応している。また、往診や受診内 容、服薬の変更を家族に報告するなど、情報を共有し適切な 医療を受けることができるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 介護職員と情報共有を行い、看護師が健康管理する。必要 があれば協力医療関係と連携し、受診したり、往診にきてい ただいたりしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 協力医療関係と連携を取り合っているので、早期診療・専門 医への紹介が可能である。入院時は医療機関と共同・情報共 有し、早期退院できるように協力医療機関にも相談。援助 を受けている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 協力医療関係と連携を取り、本人・家族を交え今後の状況に ついて相談している。看取りに関する指針を作成し入所時に 説明する。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、事業所として対応できる 内容を利用者や家族に説明し、要望に沿って安らかな最期が 迎えられるよう取り組んでいる。過去に5人の看取り支援 を経験している。終末期には主治医や看護師、関係者、家族 との話し合いや連携を図り、緊急時にも迅速に対応できるよ う体制を整備している。看取りの勉強会を開催して職員間で 話し合ったり、外部研修に積極的に参加して、職員の不安を 取り除くなどサービスの向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会などで基礎知識や救急処置方法を学ぶと共に、対応は施設のマニュアルを整備している。職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。急変や事故発生時に備え、勉強会を行うと共に対応は施設のマニュアルを整備し、職員全員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、災害時の対応は日々訓練している。運営推進会議で地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。防災士を養成し、地域との協力体制を築いている。 (外部評価) 年2回、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を消防署の協力を得て実施している。管理者は防災士資格を取得し、地域の防災訓練に参加協力をしている。職員は常日頃から消火設備の点検を行い、夕食後にはガスの元栓を閉めるなどの防火対策を徹底している。災害発生時には事業所が孤立することが予測されるため、防災マップの作成や備蓄品の用意を検討している。	災害発生時に活用できるよう、1日も早く防災マップの作成や備蓄品の用意をすることを期待したい。また、災害発生時には迅速な利用者の避難誘導などの対応ができるよう、職員全員が緊張感を持って災害対策に取り組むことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングのとき、利用者一人ひとりの状況把握を職員間で共有し、誇りやプライドを損ねない対応の徹底を図っている。また、職員一人ひとりが相手の立場に立ち、言葉づかいには十分気をつけている。 (外部評価) 排泄や入浴時は特に利用者の羞恥心に配慮した対応を心がけて支援している。着替えや排泄などの介助時は必ず戸を閉め、希望に応じて、同性での入浴介助に対応している。職員は利用者目線を合わせて声をかけ、言葉づかいに気を配り会話をしている。利用者の誇りを損ねない支援方法などを職員間で話し合い、個人情報の管理にも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 月1回の中山物産店でおやつ等を自分で選べる場面を作っている。外出時や行きたい場所等も選んでもらうように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調や気分によっては食事を遅らせたり、入浴を翌日にするなど配慮している。また、散歩をしたい人は同行したり、出来るだけ希望が添えるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容・美容においては本人の意見を聴き、訪問美容ではあるが、毛染めやパーマなど、利用者の好みにしてもらっている。また、必要に応じて家族の協力を得、行きつけの店へ行く事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好むメニューを考えたり、どうしても苦手な食べ物がある人に対しては別のものを用意するなど配慮している。食事の準備、片付け等については出来る方に声をかけをし、一緒にする。自主的に手伝ってくれる方もいる。	
			(外部評価) 月1回法人の管理栄養士が各事業所で利用者の好みや要望を聞き取り、献立を作成している。利用者の疾病や体重の変化等を確認し、利用者毎に食事に対応して、職員が調理している。食材は利用者と一緒に買い物に出かけ、近隣住民からの差し入れや畑で採れた旬の野菜を取り入れ、臨機応変にメニューを変更して調理している。利用者は野菜などの下準備などの調理の手伝いをしている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、同じ食事を一緒に楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事量は記録として残している。栄養士と相談し、食材に合ったメニュー作りを心掛けている。必要に応じ、刻む・とろみをつける等の配慮をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員に理解してもらい、一人ひとりの能力に応じ、声かけ・見守り・介助している。毎食後、きれいにする事で口臭もきにならなくなり、風邪など感染症も減少している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握する。声かけ・トイレ誘導など、本人の生活リズムに沿った支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声をかけ誘導してトイレで排泄ができるよう支援している。3年間オムツを使用していた利用者が、車いすで立位が取れることからトイレでの排泄支援を繰り返すことで、オムツから紙パンツ使用になった事例もある。利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘が及ぼす不穏行動などの影響は、ケース検討・勉強会などで理解している。食事については、栄養士と相談し工夫してメニュー作りを心掛けている。運動量や水分補給にも気を配っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴拒否等が見られる場合には、声かけ・対応の工夫をし、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。</p> <p>(外部評価) 週3回を基本として、利用者の状態に応じて入浴できるよう支援している。1階にある浴槽にはリフトを設置しており、利用者の身体状況に応じて使用し、安心安全に利用者全員がゆっくり浴槽につかり入浴を楽しんでいる。入浴の苦手な利用者には、タイミングや声かけを工夫し、自然な形で入浴してもらえるよう努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えている。就寝時は本人の希望に合わせて、声かけ・誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ・誤薬を防ぐように心掛けている。職員一人ひとりが、処方薬の目的・副作用を理解できるよう一覧表を作成すると共に、疑問があれば看護師に相談する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意分野を把握し、声かけ・見守りをしながら一緒に行く。職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と共に近隣・中庭を散歩したり、花壇や畑の手入れをする。気の合う仲間と喫茶店へ出かけ、お茶を楽しんだりするなど、戸外に出かけられるよう支援する。 (外部評価) 事業所にあるエレベーターを使用して自由な外出を支援している。事業所周辺は急な坂道があり、転倒の危険があるため、日頃から中庭を散歩したり、畑で野菜づくりをして気分転換をしている。季節に応じて、七折の梅まつりや苺狩り、コスモスを見に行ったり、喫茶店にケーキを食べにでかけるなど、外出を楽しんでいる。また、「お墓参りに行きたい」などの利用者の個別の要望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望があれば家族の協力を得て、小額のお金は持たすことも出来るが、現在は自分で持っている利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族が遠くにいてなかなか来られない利用者には、定期的に電話を掛けていただいたり、家族の声が聴きたくなれば、こちらから電話を掛けお話ししていただく。小包を届けてくれれば、お礼の手紙と一緒に書いたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレの汚染時は速やかに掃除・消毒を行っている。職員一同清潔に努め、皆さんが気持ちよく過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 年3回バルサンを焚き、防虫や消臭に気を配りながら清潔な環境整備に努めている。保養所を改修した事業所は、玄関にいすやリビングにソファを配置してあり、利用者は自由にくつろげる空間が多い。リハビリ機器も置かれており、利用者は身体機能の維持など自由に使用している。リビングは広々として明るく、窓からは保養所ならではの桜などの花や四季折々の景色を楽しむことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下にソファを置き、一人で過ごせたり、気の合うもの同士で談話できるように支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 希望があれば居室へ使い慣れた道具を持ち込んでいただき、過ごしやすい空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドや寝具、整理タンス、クローゼットを常備している。居室には利用者の使い慣れたテレビやラジオ、ぬいぐるみ、ドレッサーなどを持ち込むことができる。また、利用者一人ひとりに合わせた個性のあるレイアウトを工夫し、居心地よく過ごすことができる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりの設置・段差の解消・身障者用のトイレの設備等により、自立に向けた生活が送れるよう支援している。</p>	